



火入れ 放牧 草刈り

信州の草原の里

霧ヶ峰

花々が彩る亜高山帯の高原をみんなで守る

応募者：霧ヶ峰自然環境保全協議会

所在地：諏訪市、茅野市、下諏訪町

所有者：牧野組合、茅野市財産区、林野庁中部森林管理署

管理者：土地所有者、土地所有者以外の行政

面積：1,400ha

指定状況：国定公園、国指定天然記念物、環境省重要里地里山、日本百名山、その他

草原の概要と景観

霧ヶ峰は、八ヶ岳中信高原国定公園の中央に位置し、標高 1,550m から 1,900m にわたる山地帯から亜高山帯にある草原で、刈草は牛馬の飼料や肥料として利用されてきました。1960 年頃を境に本格的な採草や火入れが行われなくなり、多様な草原植物の減少、樹木の繁殖、外来植物の繁殖、ニホンジカの食害などの問題が生じたため草原景観や生物多様性の維持、再生のため、草原の保全再生事業を進めています。



夏の霧ヶ峰とニッコウキスゲ

草原を特徴づける動植物

4～5月にザゼンソウの花が姿を現し、スミレ類が早春に生えます。6月にレンゲツツジ、夏にアヤメ、ハクサンフウロ、アカバナシモツクなどの花が咲き、7月には霧ヶ峰を代表するニッコウキスゲが咲き誇ります。8～9月のマツムシソウ、アキノキリンソウの後、10月のリンドウで花の時期が終わります。昆虫はアサギマダラやキアゲハ、ヒョウモンチョウの仲間が多く、ノビタキ、ホオアカといった草原性の野鳥、ニホンジカ、キツネ、ノウサギなども生息しています。



身近な野鳥（ノビタキ）

草原の利用

スキー、観光、自然観察会、学校教育、環境学習、体験交流、水源地、治山、治水、公園

霧ヶ峰はかつて麓の地域の採草地として利用されていましたが、しだいに草の需要が減少し、1960 年頃を境に本格的な採草は行われなくなりました。現在では、ニッコウキスゲ、ヤナギラン、マツムシソウに代表される数多くの花々や、なだらかな山の稜線の起伏とともに広がる緑の草原景観と生物多様性が重要な観光資源となっており、観光道路ピーナスラインを通じて多くの観光客に親しまれています。



ハイキングを楽しむ観光客

管理

草刈り、播種

生態系の保護を目的としたオオハンゴンソウなどの外来植物の駆除、多様な植物の生育促進を目的としたススキやニッコウザサの刈取りを行うとともに、効果を検証する調査を実施しています。現在火入れは行われていませんが、草原景観の維持や森林化の抑制のため雑木を伐採しています。また、ニホンジカの食害からニッコウキスゲをはじめとする貴重な高原植物を守るため、電気柵・鉄鋼柵を設置しています。



外来植物の駆除作業

今後の展望、メッセージ

霧ヶ峰の自然は、人の活動との長い関わりを通じて形成されてきました。外来植物の繁殖拡大や草原を維持管理する人員の不足といった課題はありますが、霧ヶ峰独自の貴重な自然を保全するためには、保護と利用の両面で人が関わり続ける必要があります。草原の保全再生活動やエコツーリズムの推進のために、より多くの方の参画や協力を得られるよう、PRを進め事業に取り組んでいきたいと思っております。



霧ヶ峰自然環境保全協議会
座長 土田 勝義